■事業紹介

博物館どよう探偵団

専門学芸調査員　鈴木まほろ

♪ぼ、ぼ、ぼくらは　どよう探偵団♪

博物館どよう探偵団の団員は、3年生以上の小学生20名です。毎月第四・五土曜日の午後に集まり、博物館の学芸員と一緒に様々な謎解きや楽しい発見をしています。

今年4・5月の探偵団のミッションは「遺跡を探しに行こう！」。考古部門の学芸員と一緒に、博物館の近くにある松屋敷遺跡へ出かけました。何が見つかるのかな、とワクワクしながらみんなで探してみると、なんと縄文土器のかけらがたくさん！あちこちに落ちているではありませんか！自分たちで見つけた土器片は宝物のように感じられます。大喜びで記録をしていきました。その後、土器片の拓本を取ったり、測量の方法を習ったりしながら、考古学の調査方法を体験しました。

測量はむずかしい…

6月からは「雑木林のたんけん隊」となり、生物部門の学芸員と滝沢村のネイチャーセンターに出かけ、野鳥やリスが餌を食べる様子を観察しました。ふだんは気づかないけれど意外と身近にいる野生動物たち。その姿をじっくりと見ることができて、みんな大満足です。つづく7月は、雑木林で動物たちが残していった痕跡探しや昆虫採集をする予定で、とても張り切っていたのに、あいにくの雨続き・・・。そこで、博物館の標本収蔵庫にずらりと並んだ標本や剥製を見ながら、動物が残すフィールドサインのいろいろや、身近な昆虫・珍しい昆虫などについて、知識を深めました。みんな、夏休みの間にこの知識を活用して、チャレンジしてくれたかな？

8・9月は歴史部門の学芸員と一緒に、100年前のアイスクリーム作りや盛岡城址の探検をする予定です。昔のアイスクリームってどんな味なのでしょうか？とても楽しみです。

収蔵庫で昆虫標本を観察

後期の団員を募集します！

10月からは団員を再募集して、6回のミッションを行います。化石の観察や化学実験、昔のくらし体験などをする予定です。募集期間は9月15日から10月15日まで。団員になりたい方は、はがきまたはファックスで、氏名・住所・電話番号・学校・学年・保護者の方の氏名を書いて、下のあてさきに送ってください。申し込みが多いときは抽選になります。

●とき：10月から3月までの毎月第四土曜日　午後1時から3時
●ところ：博物館とそのまわり
●参加資格：小学校3年生～6年生でプログラムに3回以上参加できる人
●費用：無料です。ただし1人100円程度のレクリエーション保険料をいただく場合があります。

●お申し込み・お問い合わせは
〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34番地
岩手県立博物館　FAX 019-665-1214 「博物館どよう探偵団」マネージャー鈴木まで

博物館からのお知らせ

ミュージアムショップが1階に移転しました！皆様のご利用をお待ちしております。

※サービスコーナーは2階です。

曲り屋の一般利用について

今年9月より、博物館敷地内にある古民家（旧佐々木家及び旧藤野家・国指定重要文化財）を、文化的な催し物の会場として利用することができるようになりました。皆様！お茶会、琴や笛の演奏会、子供会や地域の行事など、古民家という空間を使って何かをしてみませんか！

詳しくは、博物館のホームページをご覧になるか、電話にてお問い合わせください。

※古民家には水道設備もあります。

盛岡弁の昔話を聞く（平成18年7月）

■活動レポート

■学芸員室より
かやぶき民家の「その後」

川向富貴子（学芸員）

博物館の敷地内には、「曲がり屋（まがりや／旧佐々木家住宅）」「直屋（すごや／旧藤野家住宅）」という２棟の茅葺き民家があります。

これらの古民家は、江戸時代の建築様式を伝える貴重な資料として昭和53年に国の重要文化財（建造物）の指定を受けました。

体験教室「かざぐるま」（６月26日）

かやぶき民家の夏（７月15日）

今年度は盛岡弁のかたりべ・カーネーションの会の皆様、遠野郷のかたりべ・安部ヤヱさんによる講座（７月15日・８月12日実施済）や、旧東和町の土沢神楽保存会の皆様による神楽の公演（８月27日実施済）等を行いました。

そして、昭和55年の博物館開館にともない岩泉町と江刺市（現奥州市）から移築した経緯を有しています。

以来、冬は雪化粧、春はサクラ、夏は新緑、秋は紅葉と、周囲の自然とともに静かに時をきざみ続けて30年。

昨年度は経年変化の修復を主としたリニューアルの機会に恵まれ、古民家はきれいな姿に生まれ変わりました。

・・・という前置きを読み、この古民家２棟の様相を頭に思い浮かべることができたでしょうか。

実のところ、博物館から少し離れた場所に位置する古民家は、その存在をご存知ない方が少なくないようです。また、存在自体は認知されていても、博物館からの微妙な距離感や隔世感といった様々な物理的・心理的要因がお客様を遠ざけているようです。

そこで、今年度は古民家を舞台とした各種イベントを連続開催し、多くの方々にご来場いただきました。

しかし、これまで「時間があればのぞいてみる」だけのものであった建物は、いざ「使う」という行為を前提としたとき、「不便な箱」であったことに改めて気づかされました。

今後はハード面の充実を図りつつ、積極的に古民家を活用していきたいと考えています。こんなイベントをしてみては？あるいはこんなイベントに使いたい！といったご意見・ご要望をお寄せいただければ幸いです。

■解説員室より
楽しさは無限大

伊藤　敦子

博物館も四半世紀の年を重ね、昨年度までに延べ約239万人のご利用を頂きました。その中には、博物館友の会の方々をはじめとして、何度も博物館に足を運んで下さる利用者の皆様がいらっしゃいます。

ご年配のＫさんは、来館されるたびに丹念に展示をご覧になり、色々な質問を投げかけてこられます。特に歴史に興味をお持ちで、私が初めてお受けした質問も懸仏に関することでした。時にはご自身が参加された遺跡の現地説明会などのお話を伺うこともあり、教えられることもたくさんあります。

Ｕさんはお子様をお持ちのお母様です。子供会の行事などでご利用を頂いていますが、先日開催していた「岩手の鳥っこ」展の時は、子供会でもまたお一人でも来館されていました。「実は私は鳥好きなの。鳥って人に人相があるように鳥相があるのよね。自分がどんな鳥が好みなのかも分ったわ。」と、ゆっくり見ることが出来てとても良かったと嬉しそうに話してくれます。そして「次の水晶展も必ず来るからね。」と言って帰って行かれました。

最近、度々ご利用を頂いているのがＭさんです。サービスコーナー前に置かれているビデオコーナーで、神楽などの郷土芸能の映像をご覧になるために、毎週のように来館されます。「こんなコーナーがあるとは知らなかった。知っていたら、もっと前から来たのに。」とおっしゃっていましたが、メモを取りながら熱心に鑑賞され、豊かな時間を過ごされて行かれます。

そして、忘れてならないのが毎週日曜日に行っている「体験教室～みんなでためそう～」に参加してくれる小さな常連さん達です。「体験教室」は小学生位を対象にした“もの作り”などを行う催し物です。保護者の方と一緒に、或いは子供同士数人で、プログラムを見ながら通い続けてくれる子供達がいます。お母様に手を引かれていた幼児が、小学生となり成長していく姿には、時おり驚かされます。

このように子供からご年配の方まで、それぞれの興味や楽しみに合わせて、博物館を繰り返し利用して頂けることはとても嬉しいことです。

博物館では、多くの皆様に満足して頂けるように、色々な企画や催し物などを用意して、皆様をお待ちしています。博物館には無限大の楽しさがたくさん詰まっています。興味や楽しみに合わせて博物館を自在に使って頂きながら、楽しい時間を過ごして頂きたいと願っています。そのお手伝いを解説員はさせて頂きたいと思っています。